

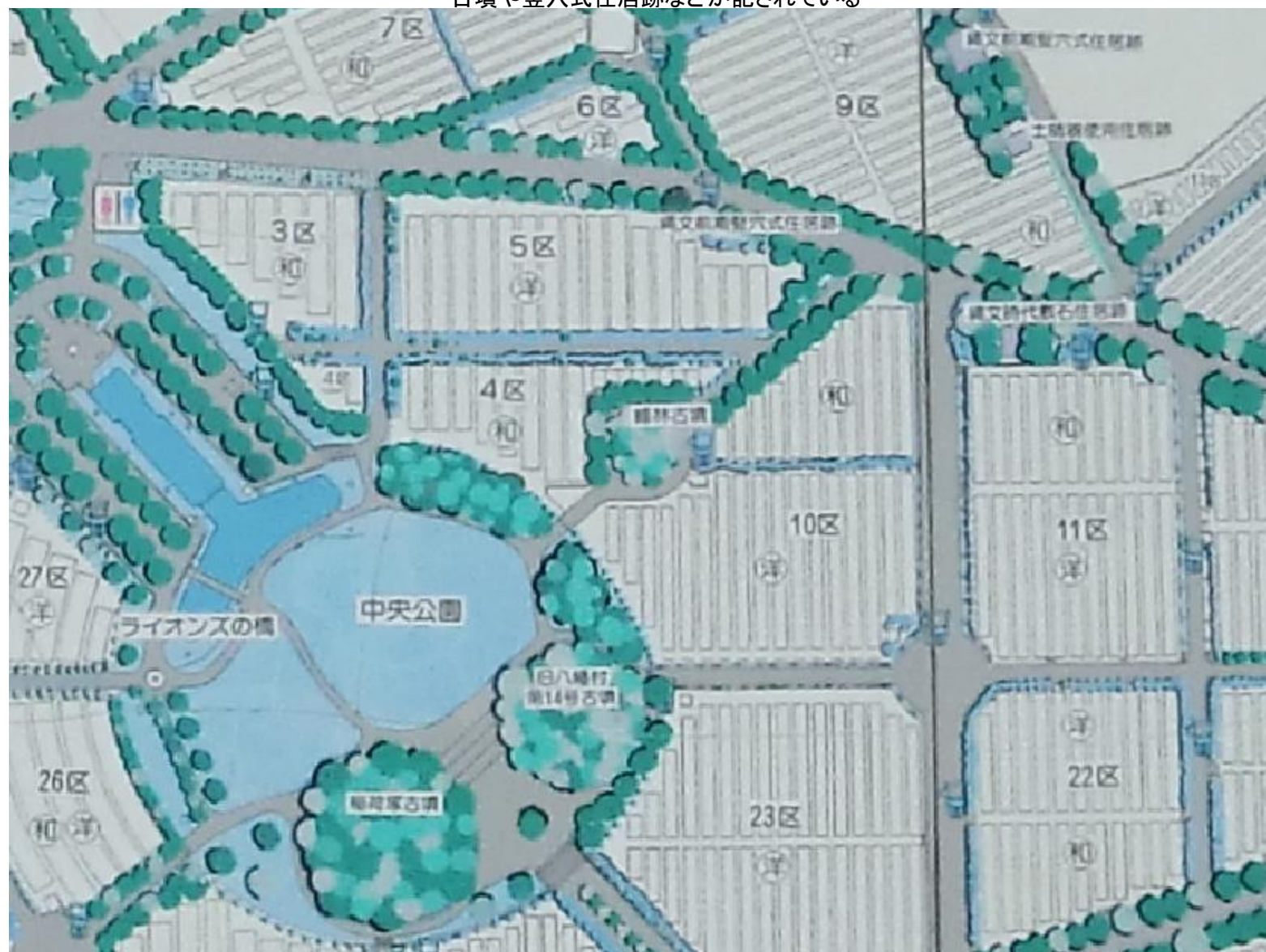
# 八幡霊園内古墳群他(高崎市)

ここは高崎市八幡霊園





古墳や竪穴式住居跡などが記されている



この先の木々の辺りに古墳が保存されている



若田大塚古墳

前方右手の高まりが若田大塚古墳/左手の高まりは檜ノ木塚古墳



これが右手の若田大塚古墳/6世紀初頭築造の円墳/左手に説明板が見える/南東側から見たところ



## 墳丘は基壇を持つ二段築成という

# 若田大塚古墳

碓氷川と烏川にはさまれた台地上には、多数の古墳が分布している。若田大塚古墳は、これらの中で最も大きな円墳の一つであり、直径は二九・五メートル、高さは約七・五メートルを計測する。

墳丘は基壇を持つ二段築成で葎石が見られ、朝顔形埴輪を含む円筒埴輪列が巡っていた。

主体部は横穴式石室のように基壇上に構築されている。石室の石積は自然石の乱積で、床には径五〇センチメートルの玉石が厚さ一五センチメートル程度に敷きつめられていた。

明治一五年地元より県へ発掘届が提出された。発掘品目録には「槍一、鉄片一、鏡一、蠟石一九、鎌片二三、鏝八、鞘片一、刀折小片、甲一、鉄鈎一」と記されている。これらのうち、鉄製の矛(図1参照)は現存長四二・七センチメートル、身幅四・四センチメートルで、断面は菱形を呈する。また、盗掘坑に残されていた鉄槍は現存長で二二・三センチメートルあり、その一部が銅製金張りの精巧な作りとなっている。横板板鍔留式短甲(図2参照)は前胴の高さ三二・二センチメートル、後胴の高さ四三・八センチメートルである。

古墳が築造された時期は、埴輪や副葬品の種類などから、群馬県に横穴式石室が多く造られるようになった六世紀初頭であると考えられる。

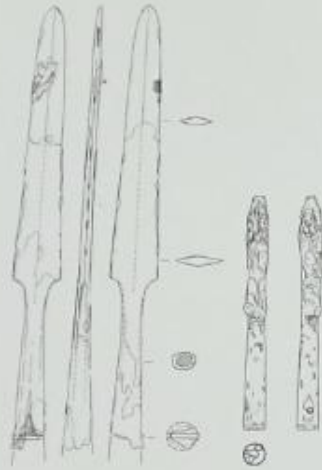


図1 鉄矛(左)・鉄槍(右)

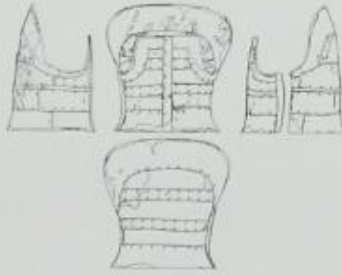


図2 横板板鍔留式単甲

所在地 高崎市若田町字大塚四二二番地一他(八幡堂園内)  
指定 昭和四七年一月十五日

高崎市教育委員会

北東側から見たところ





北西側から見たところ



西側から見たところ



さて、これは若田大塚古墳の墳頂



こんな感じ



櫓ノ木塚古墳

これは左手の櫓ノ木塚古墳/正面に説明板が立つ/南東側から見たところ



6世紀後半築造の円墳で上部が盛り土されているという

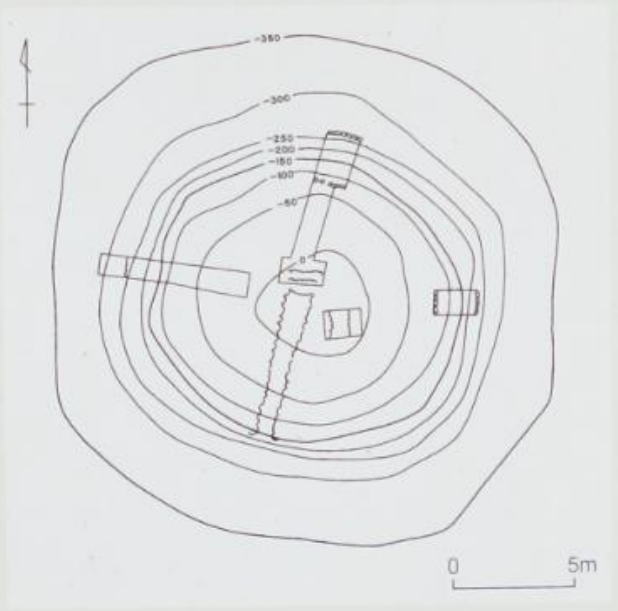


群馬県指定史跡

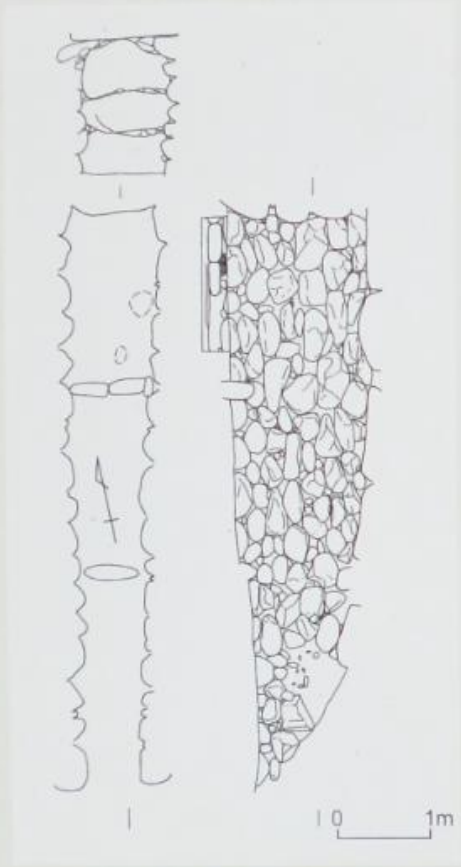
檜ノ木塚古墳

Naranokiduka-kohun

この山の下に小さな円墳が埋もれている。石室は自然石を用いた全長六・三メートルの袖無型横穴式石室で、副葬品は盗掘にあったが馬金具や鉄鍔片が残されていた。六世紀後半の築造と推定されている。



檜ノ木塚古墳墳丘



檜ノ木塚古墳石室

(『新編高崎市史』資料編1原始古代1より)

所在地 高崎市若田町(八幡霊園内)  
指定年月日 昭和四七年一月一五日  
平成二三年一〇月三一日設置

高崎市教育委員会

東側から見たところ





東側から見たところ



西側から見たところ



## 峯林古墳

これは峯林古墳/7世紀後半築造の円墳/北側から見たところ/説明板が立っている



基壇がある二段築成という

群馬県指定史跡 若田原遺跡群

みね ばやし こ ぶん

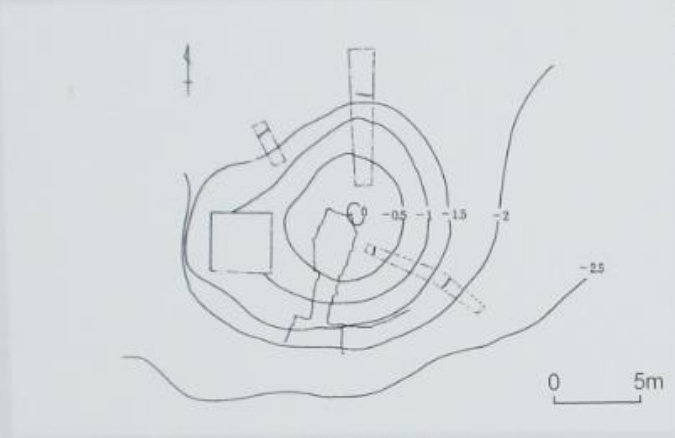
# 峯林古墳

Minebayashi-kohun

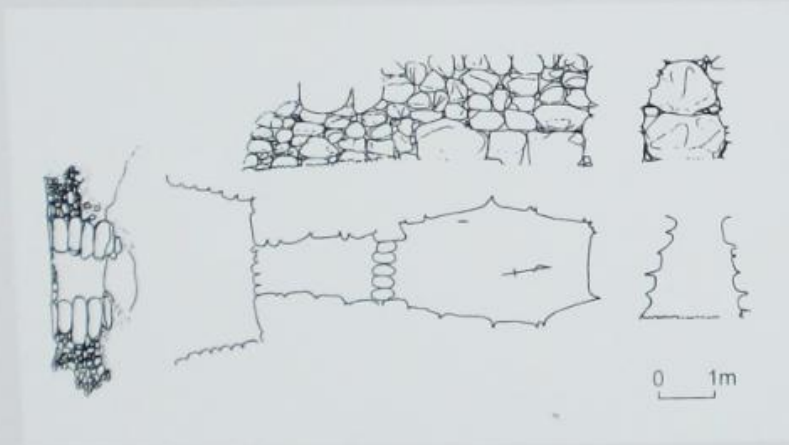
径一七・五メートルの円墳で、墳丘は二段築造で基壇を有す。横穴式石室は前庭とともに基壇上に構築されている。

石室は輝石安山岩を用いた石積みで、埋葬部の平面形は胴張り状をなし、壁石の積み上げはドーム状をなしている。石室前からは、須恵器の高杯四、杯一、土師器杯一が出土している。

古墳築造の週末に近い七世紀後半の築造と推定されている。



峯林古墳墳丘



峯林古墳石室

(『新編高崎市史』資料編1原始古代1より)

所在地 高崎市若田町(八幡霊園内)  
指定年月日 昭和四七年十一月一五日  
平成二三年一〇月三一日設置

高崎市教育委員会

東側から見たところ



北側から見たところ



西側から見たところ



さて、これが露わになった横穴式石室









胴張り状の平面形





若田原遺跡(高崎市)

さて、ここに若田原遺跡の標柱と説明板が立っている





古墳の位置と住居跡の位置/これが若田原遺跡の全容



ここは縄文時代の住居跡2





群馬県指定史跡 若田原遺跡群

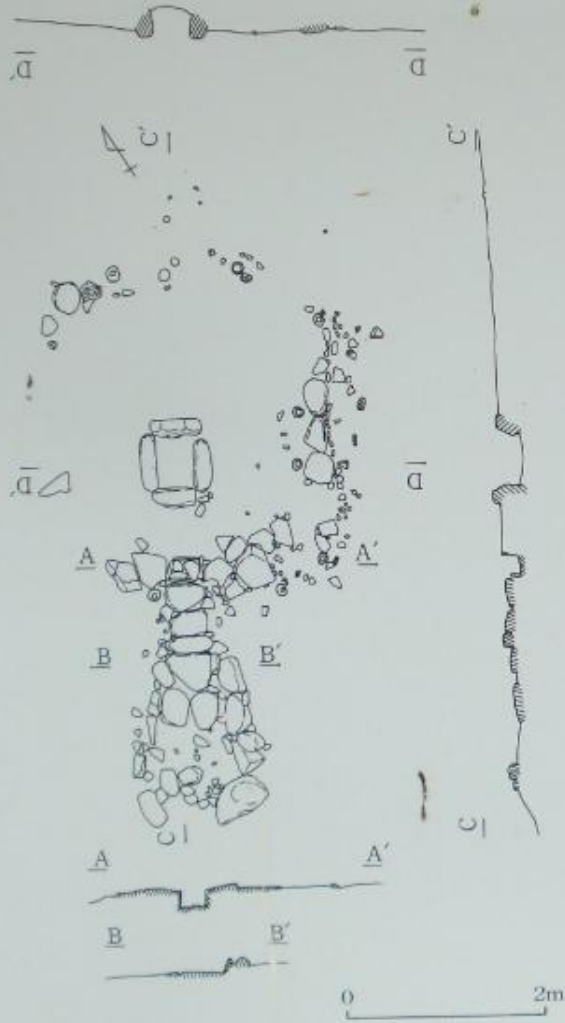
じょうもんじだいのじゅうきよあと

## 縄文時代の住居跡2

Jyomonjidai-jyunkyoato2

柄鏡形をした敷石住居跡で、全長五・六mの規模を有する。住居中央部に炉を構え、張り出し部と境には小竪穴を設置している。

住居使用時には全面に石が敷き詰められていたと推定できる。このような形態をした住居跡は縄文時代の中期から後期によくみられる。



所在地 高崎市若田町  
指定年月日 昭和四七年十一月一日  
設置年月日 平成二五年三月二二日

高崎市教育委員会

炉と小竪穴が見てとれる



反対側から見たところ



さて、ここは縄文時代の住居跡1



縄文時代前期の住居跡

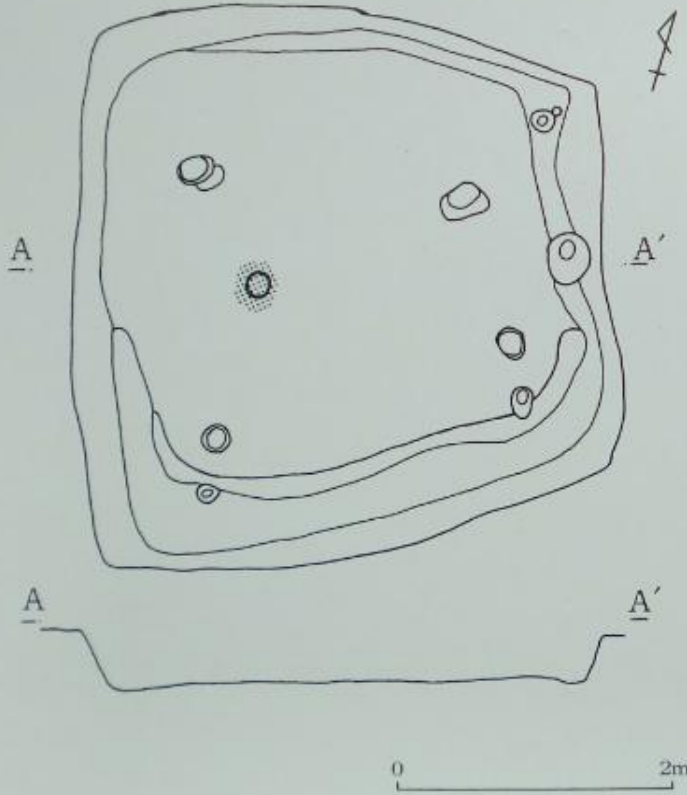
群馬県指定史跡 若田原遺跡群

じょうもんじ だいの じゅうきよあと

# 縄文時代の住居跡1

Jyomonjidai-jyunkyoato1

縄文時代前期（約五〇〇〇年前）の住居跡で、  
四・一m×三・八mの規模を有する。中央部西寄りに炉が設置されている。炉には口縁を欠いた深鉢が埋設されていた。



所在地 高崎市若田町  
指定年月日 昭和四七年一月一五日  
設置年月日 平成二五年三月二二日

高崎市教育委員会

こんな感じ



参考ホームページ

[http://sgkohun.world.coocan.jp/archive/index.php/takasaki\\_ootuka/](http://sgkohun.world.coocan.jp/archive/index.php/takasaki_ootuka/)

<http://kofunnomori.web.fc2.com/gunma/takasaki/wakataotuka.htm>

<http://oobuta3.web.fc2.com/kofunn/gunma/takasaki/wakataootuka/wakataootuka.html>

[http://sgkohun.world.coocan.jp/archive/index.php/takasaki\\_naranoki/](http://sgkohun.world.coocan.jp/archive/index.php/takasaki_naranoki/)

<http://go29.boy.jp/kofun/kanto/?p=1545>

[http://sgkohun.world.coocan.jp/archive/index.php/takasaki\\_mine/](http://sgkohun.world.coocan.jp/archive/index.php/takasaki_mine/)

<http://kofunnomori.web.fc2.com/gunma/takasaki/minebayasi.htm>

<http://blogs.yahoo.co.jp/npcsk058/22791923.html>

<http://blog.goo.ne.jp/nekotokenchiku/e/e5fade13b55fd3bcf77e26086175c1d2>

<http://kofunoheya.blog.fc2.com/blog-entry-2400.html>

<http://www13.plala.or.jp/gunmanotabi/kofun-sub/kf-wakatahara.html>

